



市内中学校の校則の現状は
小山 ようこ（創風）



問／昔からある校則や意味の分からない理不尽な校則等は見直すべきである。これからの校則については生徒や保護者を交えて議論し、生徒が主体の学校生活を作っていくべきではないか。

答／校則は、学校を取り巻く社会環境や生徒の状況の変化に応じて見直す必要があると考える。生徒や保護者を交えての議論やアンケートの活用など、各学校の自主性や独自性を尊重しながら、互いの取組について情報交換の場を設けたり、研修の機会を通じて啓発し合ったりするなど、全市的な取組として推進していく。

市内在住の高校生に対する支援を

問／県立高等学校の再編整備により、学校所在地の偏在が進んでいる。遠方から通学している生徒への通学費の負担軽減を県に対し働きかける考えはないか。

答／保護者の通学費負担の増といった課題も十分考慮した上で再編整備を進めるよう、機会を捉えて県へ要望していく。

問／高校生の資格等の取得に対する補助制度を再創設すべきと考えるがどうか。

答／高校生の資格取得を後押しすることは、高校生の就業意識の醸成や市内事業者の人材確保の促進につながる効果があると考えているので、制度再創設について検討していく。



広域観光とサイクルツーリズムの促進
江口 修一（久比岐野）



問／アフターコロナの中、健康志向のスポーツとして、自転車を活用推進できないか。

答／静岡・山梨・長野・新潟の4県が連携し、太平洋から日本海に通じるサイクルルートづくり等に取り組みることにより、当市も積極的に参画する。

問／「SEA TO SUMMIT」を、サイクルツーリズムの新たな観光コンテンツとして関東圏に広げて企画しては。

答／上越地域3市や佐渡市、県と連携し、変化に富んだ観光資源の結び付けやイベントの連携により、互いの観光振興の相乗効果を高める取組を進める。

企業版ふるさと納税PRに東京事務所活用を

問／東京事務所を活用し、企業版ふるさと納税をPRしては。

答／機会を捉えながら、様々な企業とのつながりやネットワークの構築に努め、企業版ふるさと納税の確保を図っていく。



佐渡市「佐渡金山」



妙高市「妙高山」



糸魚川市「弁天岩」



上越市「夕日とうみがたり」



带状疱疹ワクチンの周知と費用助成は
山田 忠晴（公明党）



問／任意接種である带状疱疹ワクチン接種の広報や周知、費用助成を行う考えは。

答／平成30年6月の国の予防接種に関する検討会において、「期待される効果及び導入年齢に関し、更に検討していく必要がある、必要なデータがまとまったところで検討を再開する」とされて以降、審議は行われておらず、定期接種には至っていない。市として、他の任意接種と同様、現時点で接種に関する広報や周知、費用助成を行う考えは持ち合わせていない。

児童生徒のいじめや虐待の早期発見のために

問／児童生徒に対するアンケートや聞き取り面談の形式と内容を聞きたい。

答／アンケートの内容は、いじめの実態把握・早期発見のためのもの、生活上の困り感を把握するとともに虐待事案の早期発見につながるもの、体罰に関するものがある。アンケートの形式は、項目を選択する設問や自由に記述する設問がある。回答したアンケート用紙は学級担任だけではなく、生徒指導主事や学年主任が確認し、その上で面談を通して状況を聞き取る。それを踏まえ、学校いじめ対策組織で検討し、虐待の疑いがあれば速やかに学校教育課をはじめ、すこやかなくらし包括支援センターや児童相談所等の関係機関と連携し対応している。

総括質疑

委員会審査

討論・請願

審議結果

一般質問